

史料群番号 8

史料群名	おもえむら 重茂村漁業組合資料		旧所蔵者	(重茂漁業協同組合)
探訪時住所	岩手県上閉伊郡重茂村			
現在の住所	岩手県宮古市重茂			
探訪年月	昭和24(1949)年11月			
史料の年代	明治35(1902)年～昭和15(1940)年	史料の 総点数	(94点)	
年代の内訳	近代 94点	筆写稿本	あり	
既刊行目録	「1950年3月 漁業制度資料目録 第1集 全国篇Ⅰ 日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」			

収蔵にいたる経緯

「漁業制度資料目録 第1集」には91点の史料が掲載されており、現在の収蔵史料点数が94であるから、概ね差異はない。点数の数え方は整理方法によっても違ってくる上、整理が進むと見落としていたり、挟み込まれていたりした史料が出て、点数が増えることも多い。探訪から現在まで史料の散逸、移動は生じていないと考えられる。

史料群の概要

重茂村は昭和30年以降に宮古市の一部となった。古くから鮑・若布・昆布などの海藻類を産する漁村で、重茂半島の東端にあるとどヶ崎に本州最東端の碑があることで有名である。
本史料群は、重茂浜漁業組合と音部浜(おとべはま)漁業組合の二つの漁業組合の運営史料によって構成されている。これは、別々に設立された両組合が大正3年に合併して重茂村漁業組合となったからで、その際に両組合に保管されていた書類が合わさったものと考えられる。重茂浜漁業組合の設立が明治35年、音部浜漁業組合の設立は翌36年である。本史料群にも両組合の設立時の組合規約が残されている。それ以外の史料は、大半が収入・支出を示す会計書類で、漁業権などに関わる史料はない。

